

# 第 19 回トークイン トーク作家一覧

会場：国立新美術館 国展会場内

日時：2025年5月5日(月・祝)  
午後1時30分～3時40分

国展5部門(絵画/版画/彫刻/工芸/写真)5名の作家と作品を巡るツアー形式の鑑賞会となります。  
定員は100名にて、先着順となっております。定員になり次第、募集を終了いたします。

(五十音順)

ASAHIDA  
SEVA  
**麻田 征弥**

<作家コメント>

人のつながりや関係性をテーマに人物表現を行っています。他者を通して見える自己の存在やその関係とともに、「ひととき」に時間のうつろいや不易を見出し制作しています。

(ひととき) 2024年 130号  
キャンバス、アクリル



(作品例：第98回展出品)

絵画

OKUYAKI  
HIROMI  
**奥秋 広美**

<作家コメント>

公募展に出し始める頃、自分の作品に注目して貰いたく奇をてらうと言った感じの作品を作らなければと思ってました。でも、段々それよりは自分の思いを素直に表現できるような作品を作りたいという風になりました。

(AREA 2355) 2023年 118×92cm  
木版



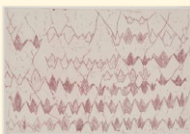
(作品例：第97回展出品)

版画

OKUDA  
FUMIKA  
**奥田 文香**

<作家コメント>

命や折りをテーマにしています。「Origami Cranes」は、広島で被爆した佐々木禎子さんが病気の回復を願いながら作った折鶴をイメージしています。平和な世界へとつながりますように。



(Origami Cranes) 2023年 40×60cm  
銅板画 ソフトグラウンドエッチング

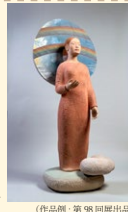
版画

KASHIARA  
TERUHIKI  
**笠原 鉄明**

<作家コメント>

四季の移り変わり、自然の繊りなす変化、雨上がりの空に浮かぶ虹、かたちは見えない光の姿、自然の素晴らしい世界。今は災害や紛争が日常を覆っている。光はより現実の中で強い存在を語り、感じさせてくれる。

(虹の先) 2024年 163×68×60cm  
木(椴)、金箔、プラチナ箔、アクリル彩色  
木彫



(作品例：第98回展出品)

彫刻

KONDO  
NOBUKO  
**近藤 のぶ子**

<作家コメント>

苧麻を栽培し、その繊維を繋いで糸をつくります。ずいぶん手間がかかりますが、織り上げた布の風合いが好きです。餅の技法を使い、風や草木の表現をコンセプトにしています。

(千日小坊) 2024年 着尺  
麻 経緯餅



(作品例：第98回展出品)

工芸

HAGIWARA  
YOSHINOBU  
**萩原 芳典**

<作家コメント>

益子の土と釉薬にこだわり、独自の焼成を探索しながら作陶しています。土と炎の対話を大切にし、自然の風合いや深みを引き出すことで、手に取る人の心に響く器を生み出したいと考えています。

(軸輪花瓶) 2024年 30×28×28cm  
粘土、芦石、木灰 窯変軸輪



(作品例：第98回展出品)

工芸

HASEGAWA  
KOSUKE  
**長谷川 清**

<作家コメント>

ストリート風景の時間と空間を気流のように感じて【stream】としての表現を模索しています。こちらは、白い光の反射映像をかさねて、秋の大阪御堂筋を雪景のように表現にしています。



(白(白)街) 2022年  
長時間露光 3枚合成

写真

MIYAKAWA  
KAORU  
**宮本 薫**

<作家コメント>

眼に見えるモノの形を借りて、眼には見えないが、そこに存在するモノや、眼にも見えず形無きモノを、私というフィルターを透して表現したいと思っています。



(いとお菓子) 2024年 170×240cm  
油彩・パネル

絵画

YAMADA  
KAZUNO  
**山田 育子**

<作家コメント>

こんな作品を作りたいというイメージを持って撮影に行くが、山の自然相手では思うように行かない。それでもその時の、一期一会の出会いを大切に精一杯写す。三脚を使って、きっちり写すように心掛けている。



(初冬) 2024年  
紙の仕様：ハーネミュレ(ドイツ)という製品

写真

WATANABE  
HAYUMI  
**渡辺 治美**

<作家コメント>

植物を地で支える逞しい生命力に満ちた根。深い底から喚き出すようにうねり伸び、脈動する命の鼓動を表現したい。天災及び争いの絶えない今、生きものの命の源とは何かと追求したくなり制作している。



(Root) 2024年 57×65×75cm  
オニキス(石)

彫刻

■ツアーコースには、上記10名のトーク作家のうち、5つの部門(絵画/版画/彫刻/工芸/写真)から1名ずつ選ばれたトーク作家(計5名)が割り当てられます(※1)。特に関心をお寄せするトーク作家がいる場合は、申込み時に1名を要望として指名いただけます(※2)。所定の申込書(FAX/メール)またはウェブ申込フォーム(国展HP特設サイト/右下のQRコード)の自由記述欄にご記入ください。

※1 申込時の内容を参考に、コースを設定します。 ※2 申込の状況によっては、ご要望に沿えないことがあります。ご了承ください。

国画会事務局 トークイン係宛  
〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-16 北田ビル4階  
TEL/Fax:03-3438-1470 e-Mail:talkin@kokuten.com

